

広報

こだま

2015

Vol.22

【栗田病院 広報誌】

広報散歩

地域医療連携室

フォーカス くりた人

小規模多機能ホーム クリクリ 介護福祉士 大森奈美

「第4回日本精神科医学会学術大会」に参加して 栗田病院レビュー

- ・職員運動会
- ・創立記念講演会



有朋会・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張っており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>

広報散歩

「地域医療連携室」 ―栗田病院の頼れる相談窓口―

今回は、多くの医療機関で医療・福祉と患者様を繋ぐ重要なポストとして位置づけられる「地域医療連携室」にお邪魔しました。
対応いただいたのは伊藤智子さんと大槻花織さんです。

部署の構成を教えてください

伊藤 地域医療連携室の専属としては精神保健福祉士5名が働いていますが、業務内容のリンクから病棟担当の精神保健福祉士7名と常に協力して業務を行っています。全体で見ると男性3名、女性9名で構成されています。

法人での役割・業務内容は？

伊藤 主な役割は3つあります。
一つは「初めて受診される患者様の対応」です。初めていらっしゃる患者様が安心して受診に繋がるような関わりを意識しています。病院やスタッフに対しての不安や緊張も大きいと思います。予約時の受診相談や初診時のインテーク※の際は、できるだけ不安や緊張をほぐし、話を聴かせていただく姿勢を心掛けています。
二つ目に「入院に関する相談対応と調整」です。患者様本人、ご家族様や関係機関から入院相談を受けてお



精神保健福祉士 伊藤智子 精神保健福祉士 大槻花織

※インテーク：受診者がどういう悩みを抱えているか、その悩みの背景にあるものはなにかなどを明らかにするために、精神保健福祉士が話を伺う初回の面接。

ります。患者様の状態の把握とスムーズな入院に繋がるような様々な調整を行っています。
大槻 最後に「各種制度や社会資源等の相談対応」です。利用できる制度や資源は様々です。病気のこと、生活に関すること、就労やお金に関することなど、安心して地域生活が送れるようその方にあったサービスと一緒に考え情報提供しています。

業務でここが大事というポイントは？

大槻 精神保健福祉士に共通して言えることですが、患者様・ご家族様の立場に立って考える視点、社会資源に関する知識、安心して話をしてもらえるような関わりです。患者様の想いや悩みに寄り添うことが大事だと感じています。患者様と主治医など、他職種との調整をする役割でもあるので、患者様の本心に伝えたいことを引き出したいと思っています。そのためにも多種多様な相談や経験を重ね、面接技術のスキルアップをしていく必要があります。

伊藤 医療連携を行う上での調整役としても大事なポイントです。連携と言っても法人内外様々です。立場や職種が異なると連携がなかなかうまく行かない事も出てきますが、患者様を中心に考え、本心に必要としていることを調整することが連携をスムーズにするポイントだとも思います。期待されているのは、法人内外を問わず連携の中心となり、コーディネートすることだと感じています。
大槻 精神保健福祉士は社会福祉がベースにあるので、他職種と視点が違うことはありますが、患者様のよりよい生活を目指すという目標は一緒だと思います。患者様の意思を尊重し、ご本人が元々持っている強みを引き出せるような関わりをする。私たち精神保健福祉士の専門性はそこにあると思います。

法人内部署との関わり・繋がり

大槻 情報共有を大切にしています。例えば、外来・事務とは毎朝と毎週土曜日にミーティングを行い、正確な情報を共有し合う時間を作っています。朝のミーティングは、当日に受診される患者様の情報提供を目的とし、土曜日に行われるミーティングでは一週

間の振り返りを行っています。患者様がよりスムーズに受診できるように、日々の業務の中で気付いた事を共有し意見交換に役立っています。

今後の地域医療連携室

大槻 よく部署内のミーティングを行っています。精神保健福祉士としての価値や専門性を確かめながらそれぞれの力を発揮できるようにスキルアップをしたいです。法人内外問わず、相談しやすい地域医療連携室を目指していきたいです。医療・福祉と患者様を繋ぐ最初の窓口として、受診の相談や入院の相談、どんな事でも頼ってもらえる部署になりたいですね。

伊藤 大槻さんはじめ、連携室の1人ひとりと面談すると今の業務で満足している人は一人もいません。みんな高い向上心と意欲を持っている職員ばかりです。実現するのは大変な事かもしれませんが、ソーシャルアクション※等の新しい取り組みを提案していきたいと考えています。患者様との関わりの中で、こんなサービスがあればいいのと感じる事があります。地域開拓は簡単な事ではありませんが、地域移行定着支援が求められる中で、精神疾患を持った方が地域で安心した生活を送れるような連携に取り組みたい、地域を巻き込んだ活動を行いたい思いがあります。



また、ここ数年の活動として、地域の医療機関や施設へ挨拶回りを行い、ようやく顔の見える関係が少しずつですが築けているものと思います。
「連携」と口だけにならないように、なにか特別な連携体制の構築ができればと考えています。一つ上のレベルのシステム構築の実現が最初の目標ですね。「精神科・認知症なら栗田病院」と専門病院として、その期待の一つひとつに応えられる部署でありたいです。

※ソーシャルアクション：地域住民や当事者のニーズに応じて、既存の社会福祉制度・サービスの改善、拡充、創設を目指して議会や行政機関に働きかける運動。

フォーカス くりた人



小規模多機能ホームクリクリ

介護福祉士 大森奈美

当院で働く、現場職員の声をお届けします。

部署での役割や活動

私は、今年の1月から小規模多機能ホームで介護福祉士として勤務しています。小規模多機能ホームは、「通い」・「宿泊」・「訪問」といった多様なサービスを、同じ施設で同じスタッフが一貫して提供できるという特徴があります。住み慣れた地域でよく顔の知っているスタッフが利用者様のニーズに合わせたサービスを提供できるのです。

介護福祉士としての私の業務は、食事や入浴などの日常生活の支援や機能訓練を中心としています。利用者様によって介護度や身体機能、希望するサービスはそれぞれ異なるため、小規模多機能の特性と介護福祉士としての専門性を活かしながら日々の業務を行っています。

その他プログラムにも力を入れています。夏祭りや紅葉を見にドライブに出掛けたりと、季節毎のプログラムや、室内で行える軽スポーツなどを行っています。最近では敬老の日に、利用者様一人ひとりにメッセージカードをプレゼントしました。

利用者様が安心して笑顔で過ごしてもらえるようなサービスの提供を心掛けています。

業務で意識している事

コミュニケーションをなにより大切にしています。当たり前の事かもしれませんが、利用者様やそのご家族様との関わりはお互いの信頼関係で成り立っています。

す。そのため、よりよい介護サービスを提供するために的確なコミュニケーションを取るよう心掛けています。介護の仕事は高齢の方と関わる事が多いのですが、有朋会では特に認知症の方を対象としています。認知症を患っている利用者様の中には、意思表示が苦手で、首を振ったり身振り手振りで応えたりする方もいるのですが、そういった方が言葉で挨拶を返してくれるようになったり、お風呂を嫌がっていた方が入るようになってくれたりと、コミュニケーションを意識し繰り返し事で利用者様に変化が現れるのです。介護の仕事は十数年やっていますが、初めは利用者様とうまくコミュニケーションが取れなかったのを覚えています。信頼関係を築けず失敗した経験もたくさんありました。そんな時に先輩の介護士さんから「たくさん話す事」、「目を合わせて話す事」、「笑顔」が大事と教わりました。利用者様が心を開いてくれるようにそれらを常に意識して業務に取り組んでいます。

有朋会でのやりがい

今までは入所型の施設でしか働いたことがなかったのですが、小規模多機能ホームで働くようになったので、利用者様に合わせた幅広いサービスの提供ができる事におもしろさを感じています。先輩方も専門的な知識を豊富に持っている方が多く、アドバイスをもらいながら働く事が出来ています。

そして小規模だからこそできる利用者様との関わり方があります。10名程度の少人数を対応しているので、一人ひとりとゆっくり話ができ、日々の小さな変化にも目を向ける事ができます。さらに、施設の特徴を活かし多方面からの介護支援が可能となります。通常は「デイサービスも通いたい」「訪問介護も受けない」と希望があった場合、それぞれのサービスを別の事業所が提供する事になり、利用者様やご家族様とスタッフのコミュニケーションは限られたものになってしまいます。その分、私たちの施設では、それらのサービスを同じスタッフが対応できるので安心して利用していただけたと思います。

「利用者様にとって本当に良いサービスはなにか」を、スタッフ全員が同じ立場で考え話し合っている

ので、モチベーションを常に保ちながら働ける事にやりがいを感じています。

介護福祉士を目指したキッカケ

母が看護師だったので、もともと医療・福祉の分野に興味がありました。子どもの頃はおばあちゃん子で昔から高齢の方が好きだったので、中学高校と地元の老人ホームにボランティアに行っていたのが一番のキッカケだと思います。その時お世話になった介護士さんの利用者様に接する対応一つひとつを見て、「将来こんな仕事に就きたい!」と考えるようになりました。介護の仕事は正直大変なイメージもありましたが、ボランティアでの経験や学校で介護について学んでいくうちに、介護福祉士になりたいという気持ちは大きくなっていました。

これからの私、今後の目標

有朋会に入職してまだ1年未満なので、まずは小規模多機能ホームという施設を学び、専門的な知識を身に付けていきたいと思っています。

個人としても成長を続けていきたいです。偏ったサービスの提供ではなく利用者様がいろいろな活動を行えるよう提案したり、新しい資格を取得して視野を広げたりと、まずは介護福祉士としてのスキルアップを目指したいです。

そして、有朋会の理念には「利用者様やそのご家族様だけでなく我々職員の笑顔を増やし続けること」と掲げられています。働くスタッフが笑顔でやりがいを持って楽しく働く事で、それが利用者様に伝わり、サービス・ケアに繋がるという意味がこめられているそうです。それを体現できるような人になりたいと思っています。

『利用者様の「笑顔」や「ありがとう」を大事にしていきたいです。』と語る大森さんでした。

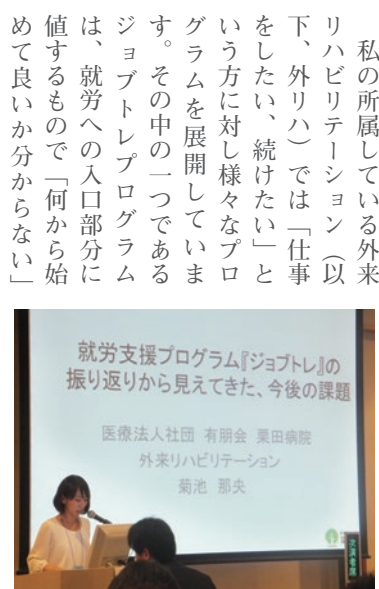


「第4回日本精神科医学会学術大会」に参加して

平成27年10月8、9日に沖縄で行われた日本精神科医学会主催の学術大会に当法人から4名の職員が参加しました。

毎年行われるこの学会には、当法人もスタッフの自己研鑽の場として積極的に参加を促しております。以下が参加職員の紹介と発表内容です。

表題…就労支援プログラム『ジョブトレ』の振り返りから見えてきた、今後の課題
・作業療法士…菊池那央

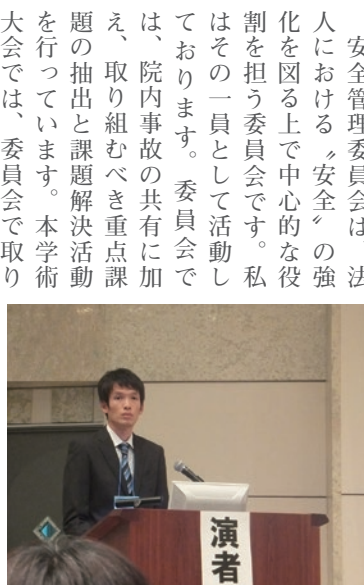


私の所属している外来リハビリテーション（以下、外リハ）では「仕事をしたい、続けたい」という方に対し様々なプログラムを展開しています。その中の一つであるジョブトレプログラムは、就労への人口部分に値するもので「何から始めて良いかわからない」「自分に合う仕事って何だろう」といった方が働き方を考えるためのプログラムです。今回、このプログラムを開始した平成23年以降の取り組みを報告させて頂きました。就労未経験の方、長年外リハを居場所として利用していた方、職を転々としていた方が働き方を検討し就職活動を開始するようになった一方で、治療の重要性を感じ就職活動を中断した方もいらつしました。また、方向性が定まらない事でモチベーションが下がってしまうという課題も挙げられました。1人ひとり状況や状態が異なるため、個別性を重要視することを基本としながら、今後の取り組みとして新しいプログラムを立ち上げようと考えています。

この学会への参加はこれで3回目となりますが、年々地域支援の重要性が強く求められているのを感じています。

じます。地域で生活する方々を支援する外リハの役割は大きく、利用者の皆様に必要とされるような、より良い支援が出来るよう努めていきたいと考えています。

表題…当院精神科外来における暴力事故防止の取り組み～安全管理委員会の活動報告～
・作業療法士…坂元勇斗



安全管理委員会は、法人における「安全」の強化を図る上で中心的な役割を担う委員会です。私はその一員として活動しております。委員会では、院内事故の共有に加え、取り組みべき重点課題の抽出と課題解決活動を行っています。本学術大会では、委員会を取り組んだ重点課題のひとつ『外来における暴力事故防止』について報告しました。

暴力事故発生の背景には様々な要因がありますが、事故防止のためには事故発生の「真の原因」を見つけ出し対応策を導くことが必要です。今回の取り組みで導いた対応策の一つに、事前に得た危険予知情報を有効活用し、関係する全部署で危機回避に取り組むためのルールがあります。暴力を完全に防ぐことは困難ですが、①暴力が起きる前の危険な状況をいち早く察知し危機回避すること、②発生後の迅速な対応、の2点が暴力事故防止に大切だと考えます。

栗田病院レビュー

職員運動会開催!!

今年で3回目となる有朋会職員運動会。紅白のハチマキを目印に2チームに分かれ、例年を超える熱戦が繰り広げられました。

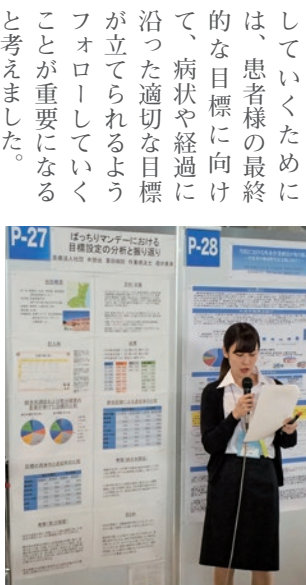
綱引きや玉入れなど全員参加の種目と選拔選手によるリレーなど、全5つの競技が行われました。接戦が繰り広げられる中、僅差で勝利を手にしたのは、昨年に引き続き理事長率いる赤チーム。院長チームには来年のリベンジに期待です。

有朋会では、こうしたイベントを通して部署や職種、役職の垣根を越えたコミュニケーションが醸成されていきます。



表題…ばつちりマンデーにおける目標設定の分析と振り返り
・作業療法士…櫻井美来

ばつちりマンデーとは、急性期病棟に入院されている患者様を対象に毎週月曜日に行われるOTプログラムです。患者様自身が積極的に治療に加わる意識を持つことを目的としています。その内容は、専用シートを使用しながら前週1週間の振り返りと、それを踏まえて新たに今週の目標を立て、スタッフと深めていくというものです。今回の研究では目標達成率はどうか、疾患による違いはあるのか等、傾向を明らかにすることを目的に調査しました。80名の患者様を調査した結果、平均達成率は74%でした。統合失調症と気分障害については、参加回数や目標の具体性による達成率の違い等、より詳細な調査を行いました。結果、統合失調症では、人格水準の低下した患者様が現状に見合わない目標を継続して挙げる傾向にあることが分かりました。気分障害では、目標の具体性よりも参加回数の方が達成率に影響を与えていることが分かりました。今回の研究の結果から、ばつちりマンデーをより良いプログラムに



表題…統合失調症患者の心理教育―ストレスと注意サインの自覚―
・臨床心理士…赤岩美希

第4回日本精神科医学会学術大会では、統合失調症の患者様を対象とした心理教育プログラム「こ

創立記念講演会

有朋会では、創立記念事業として毎年外部から講師を招き講演会を行っております。



今年度は医療法人静風会大垣病院理事長・院長の田口真源先生にお越しいただきました。「岐阜県西濃地区認知症の地域連携の現状―オレンジ手帳のICT化を利した4層構造と認知症疾患医療センター―」と題して講演をいただきました。

ご講演いただいたの感想

岐阜県の認知症疾患医療センター事業の取り組みや、オレンジ手帳のICT化やSNSを利用した地域の関係機関との連携について知ることができました。特に地域の関係機関との連携に関して、困難事例に迅速に対応できる体制は、今後当法人の認知症疾患医療センターにおいても、今以上に求められる部分であると感じました。今回学んだことを業務に活かし、今後も地域で生活する認知症の方を支えらる認知症疾患医療センターを目指していきたいと思ひます。

認知症疾患医療センター 松本洋美

診療案内

外来担当医一覧表

受付時間 午前 8:00 ~ 11:30 / 午後 11:31 ~ 15:00
診察時間 午前 9:00 開始 / 午後 13:30 開始

	診察室	月	火	水	木	金	土
午 前	1 診	安部	疋田	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	堤	高橋	堤	田口	堀	第2週 鈴木 第3,5週 吉川
	3 診		袖山	木滝	木滝	疋田	高橋
	5 診					井出	田口
午 後	1 診	栗田					休診
	2 診		高山			第2,4週 安谷屋	
	3 診		佐藤	竹下		渡辺	
	6 診					井出	

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

*精神科外来は完全予約制になります。

*当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。

予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

■ = 内科

関連施設

地域生活支援事業部

障害福祉サービス事業所 自立訓練(生活訓練) ショートステイ

「くりの実」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505 TEL&FAX.029-295-1834

障害福祉サービス事業所 グループホームくりの木

「第一くりの木」「第二くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7652

「くりくり」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681

「くりあん」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2 TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

認知症疾患事業部

認知症デイサービス

「クリクリ瓜連」 〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7 TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558

「クリクリ住吉」 〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6 TEL.029-248-1001 FAX.029-248-0215

「クリクリ市毛」 〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2 TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263

「クリクリ青柳」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5 TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

小規模多機能型居宅介護施設・認知症グループホーム

小規模多機能ホーム「クリクリ」・認知症グループホーム「クリクリ」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰140-17 TEL.029-352-0016 FAX.029-298-7750

アクセスマップ

